



～文化遺産を訪ねて歩こう!!～

4月号から来年3月号までの上尾歴史散歩は、『あげお歴史探検マップ』をもとに、市内の文化遺産を訪ね歩く市内の散策コースを紹介します。10～12月は、原市地区周辺のコースを巡ります。

妙厳寺にある「西尾隠岐守一族累代の墓」



原市の古刹に残る大名・旗本の史跡を巡る

今回から3回にわたって、江戸時代から市が立ち、町場として栄えた原市を巡ろう。

スタート地点の原市公民館から、さいたま苜蓿線(第二産業道路)に出て北上すると、左手に「相頓寺」①が見えてくる。2階建ての階上に梵鐘を吊るした鐘楼門をくぐり、境内に進む。相頓寺は南北朝時代の永徳2(1382)年の開創と伝えられ、同年の銘を持つ板石塔婆をはじめ、本尊の「木造阿彌陀如来立像」、「相頓寺三仏」、「相頓寺絵馬群」など多くの市指定文化財が残る。地藏堂に安置されている相頓寺三仏の一体である「地藏菩薩像」は、文禄5(1596)年に、後に触れる領主・西尾隠岐守吉次が開眼したとの書付がある

と、江戸時代後期の地誌書「新編武蔵風土記稿」に記されている。相頓寺から「放光院」②に進む。ここには、徳川家康に仕えた松下安綱(常慶)の五男である、豊前守房利の供養塔(市指定文化財)がある。房利は、寺が所在する上尾下村の他、市内の須ヶ谷村、門前村(西門前)などを領した。この塔は、房利の百回忌である安永4(1775)年に建立されたものである。松下家の墓は、明治期に愛染院(東京都新宿区)へ移転

したが、地元の要望によりこの塔だけ残されたとされる。

放光院から再び第二産業道路に戻り、北に向かうと「妙厳寺」③がある。妙厳寺は、近世初期に原市を含む上尾・桶川市域東部を支配した西尾氏と縁が深い寺である。三河国愛知県出身の西尾隠岐守吉次は織田信長に仕え、寺内には、吉次が信長から拝領したとされる埼玉県指定文化財「永楽通宝紋鞍(付鎧一双)」も伝えられている。本能寺の変の際に、堺(堺市)を遊覧していた徳川家康を逃がすため、伊賀(三重県)越えに同道したことを縁として、後にその家臣となった。家康の関東入国とともに足立郡に入った吉次は、妙厳寺を再興し、菩提寺とした。西尾氏はその後、石高1万石以上の大名へ出世し、大坂夏の陣の後の元和4(1618)年にこの地を離れるが、その後11代にわたって当主の墓所が建立され、大切に守られてきた。市内に大名の累代の墓所が揃って残されている例はなく、貴重な史跡として市指定文化財となっている。

次号では、原市の町場として栄えた町並みへと足を進めよう。

(上尾市生涯学習課)

今に伝わる祈りの文化

荒川周辺に花開いた文化

人と文化が繋いだ町

街道に刻まれた歴史